

第3回 大町市景観計画検討委員会 会議録

1. 会議概要

(1) 会議名 第3回 大町市景観計画検討委員会

(2) 日 時 令和6年5月27日（月） 13:00～15:00

(3) 場 所 大町市役所東庁舎2階 東大会議室

(4) 出席者

委 員：亀山委員長、中山委員、宮永委員、荒井委員、小日向委員、一條委員

曾根原委員、降旗委員、竹内委員、川上委員、倉石委員、水野委員、山崎委員

欠席者：続麻委員、遠藤委員

事務局等：駒澤建設水道部長

建設課：松田課長、吉原係長、矢口主査、吉川主任

株式会社KRC：小林、長尾

(5) 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

1) 前回委員会及び委員会後の聴取意見の整理（資料1・資料2）

2) 景観に関するアンケートの結果概要（資料3）

3) 大町市景観計画の骨子作成に向けて（資料4）

4 その他

5 閉会

(6) 配布資料

・次第 第3回 大町市景観計画検討委員会

・資料1 第3回委員会における確認・検討事項

・資料2 第2回 大町市景観計画検討委員会 会議録

・資料3 大町市の景観に関するアンケート調査の結果概要

・資料4 大町市景観計画の基本構成に基づく各項目の設定方針・方向性等について

2. 議事要録

○事務局から委員・事務局員交替の紹介

- ・年度替わりの人事異動に伴い、大町建設事務所の関委員が山崎委員に交替し、事務局も古平建設水道部長から駒澤建設水道部長に、中山課長補佐から吉原係長にそれぞれ交替したことを紹介。

1) 前回委員会及び委員会後の聴取意見の整理

資料1により、第3回委員会における確認・検討事項について事務局から説明。これについて、各委員からご意見をいただいた。

なお、資料2の第2回会議録については説明を省略し、発言内容の修正等がある場合は、後ほど事務局へ申し出いただくことを確認。

○亀山会長

資料1の表で、赤く網掛けになっている部分が景観計画の中で必ず定める内容で、その他についてはこの会議でご意見をいただきながら決めていくことになる。

「はじめに」でまず景観計画区域を設定する。全市域をその区域にしたうえで、その中をどんなふうに区別するかが課題となる。第3章の景観形成のために行為制限は、景観づくりの手法として一般的によく用いられているが、行為制限の内容をどのようにしたらよいかが課題。第4章では景観重要建造物や景観重要樹木などを指定する。大きく言うとこの辺が必須の計画内容で、その他、さらに独自に色々なことを考えられるというのが景観計画だということを、あらかじめ頭に入れておいていただきたいという説明である。

そしてもう一つは、おおよそのスケジュールで、本日の会議が3回目で、あと残り3回、全6回でこの計画をまとめていく予定となっている。これについて何か質問はあるか。

→とくに質疑なし。

2) 景観に関するアンケートの結果概要

資料3により、事務局からアンケートの結果概要について説明。これについて、各委員からご意見をいただいた。

○亀山会長

質問やご意見があったらお願いしたい。これまで皆さんのご意見をお伺いしたが、改めてアンケートをとらせていただくと、やはり自然がよいというのは本当に圧倒的に多い。身近な景観も大事だというところも受けて、どのような景観計画をつくっていくか。何かお気づきの点があったらお願いしたい。

○一條委員

感想と質問。まず感想で、アンケート結果のなかで特徴的と思ったのは2,000名のうち回答が648名。住民懇談会にも出席させていただいたが、そこに出席する方々は当然興味がある方が出てくるので色々な意見は出るが、アンケートは無作為抽出によって集められた意見。景観計画に関するアンケートは初めてなので私には傾向はわからないが、あまり関心がないが21%しかなく、魅力を感じていないが27%など、そのなかには全然関心がないという方たちも多いかと思うが、これらの割合は

一般的にもう少し多くなるのかと思っていたが、無作為抽出でアンケートをとったにも関わらず、関心をもったり、魅力を感じたりしている方たちの割合が多い感じがした。質問として、KRC が他の自治体さんで同じようなこと（アンケート）をされている経験から、大町市のこの傾向をどういうふうに思われているか。

○事務局：KRC 小林

具体的な数値まで申し上げられないが、率直に言うと、関心の程度と魅力を感じている方の割合は非常に高いと思う。半数を下回るというケースはあまりないが、低いところでは5割とか6割に留まるケースもあるので、身近な暮らしの場の景観に関心があり、魅力を感じている方が8割を超えるというのはなかなか目にしない結果だと感じている。

○一條委員

私の印象では、住民はあまり景観に関心がないと最初に思ったが、住民懇談会やアンケート結果をみて、かなり大町市民の方が、自分たちのまちの魅力や景観も含めたものに対して、非常に関心が高いということに驚いている。アンケートの内容については、やはり数字は予想どおりで、北アルプスに関するものがかなりの割合で、たぶん他の自治体だともっとばらけると思うが、8割、9割が北アルプスに関することを魅力として捉えている。田園や色々な神社仏閣も出ているが、たぶん山並みとセットで景観を見ているところもある可能性もあり、そうすると相当の割合が北アルプスや山並みの景観、水も含めると湖などの大自然にかなり偏っていると感じた。景観計画を作成するなかで、1つの方向性としては、あまり総花的にあれもこれも並列的に同じようなボリュームでつくるより、大町市の特徴や住民の方の興味を考えると、山並みや水など大自然に関するところに中心を置いてまとめていく方法がよいのではないか。例えば、規制をどうしていくかというところに関しても、やはり何もかも規制できないため、守らないといけない風景、山並みの景観のよい場所のレベルを1、2、3などと決めて、自主的にレベル3のところはかなり高い規制をつくるとか、レベル1に関しては努力規定にするとか、何もかも全部守るのではなく、重点を置いて、メリハリをつけた計画や規制にするほうが特徴は出るというふうに感じた。

○亀山会長

景観に対する意識を非常に強くもっているということが、アンケート結果のなかで特徴的だと思うが他はいかがか。どの部分でも、日頃感じていることでも構わないのでご意見いただきたい。

○宮永委員

やはり大町市は山脈が見えるということで、どこにもない日本一の山並みが揃うという部分で、皆が本当に大切にしているという表れだと思う。一條委員が言わされたように、大きなところを掴みながら前へ進めていくとよいということが、このアンケートを見てもわかるような気がする。

○亀山会長

山の景観もそうだが、集落の景観というのを結構意識されていて、私は30年前に平の野口に家をつくったが、つくってすぐにご近所の奥さんがハナモモの苗を3本持ってきて、お宅はまだ植えてないからと言ってくれた。しばらくしてハナモモも大きくなり、花が咲いて、冬になって気が付いたが、

うちの集落は18軒家があって、ハナモモが植わってない家がおそらくないと思う。全部植えられているためハナモモの季節、4月にはものすごくきれい。誰かが別に決めたことではないが、みんなでやるから、それは大事なことだなと思った。住んでいるところに対する関心というか、景観というものに対する関心が非常に強い。とくにルール決めるということではなく、とてもそこに感心していく、家の周りの草刈りをちょっとやらないでいたときに1回だけだが、「お宅草が茂っている」と言われたこともある。そんなに茂らせているつもりもなかつたが、少し伸びたときにそのご指摘をいただいてから、草刈りをきちんとするようにしている。本当に皆さんよく草刈りをされていて感心する。やはりきれいに住みたいという意識が強いと思う。住んでおられる方はあまり意識されていないかもしれないが、外から来ているため余計に強く感じた。

この後にもう1つ議題があるので、その説明をいただいたあと振り返ってアンケートなどについても改めて考えてみたいと思う。

3) 大町市景観計画の骨子作成に向けて

資料4により、事務局から景観計画の骨子作成について説明。これについて、各委員からご意見をいただいた。

○亀山会長

重要なことを、なかなか一遍に理解するのは大変だと感じられると思うが、徐々に理解しながらご意見をいただきたいと思う。

最初が景観計画のなかで「はじめに」に相当するような部分で、資料4の2ページに、計画策定の目的がある。さらっと読むとそんなもんかという感じはするかもしれないが、そもそも計画策定の目的を考えるとき、新しいことをしようとしているわけではなく、これまで市民の方がやってきたようなこと、共通認識にするというようなところが大事だと感じる。

もう1つは、新たに市民になられた、外から来られた方に対して、大町市はこうやってよい景観を維持してきたということをわかってもらうことが大事だと思うので、計画策定の目的を考えるときもまったく新しいことをこれから始めるのではなく、これまでやってきたことを共有して、これをずっと続けていくような姿勢がよい。計画策定の目的は、皆さんに委員をやっていただきて、何のためにやっているのかを市民の方に説明していただく際に、この目的をどのように考えたらよいか、ご意見をいただければと思うがいかがか。

あまり皆さんには意識せず、気にされてはいるかとは思うが、私みたいなよそ者はとても新鮮に感じていて、すごく皆さんしっかりやっておられると思う。この美しいところに、美しく住もうと思っているというところが非常に感心させられている。

○中山委員

全体の構成としても、やはりプロがつくったという感じで、非常によい内容、筋が通った内容になっていると感じる。目的はこの3つでよいと思っていて、私個人の感じとして、住んでいる人にとって気持ちよければ、他からも来てくれる、また他にも発信できるという流れからすると、順番として地域の魅力の再発見が2番目で、3番目は外への発信という順番になればよいというのが希望。内容的には問題ないと思う。

○一條委員

私もPRというか、発信していくところをもう少し目標のところ、目的のところに加えられたらと思う。あまり馴染まなければ入れなくてもよいが、若干弱いと思っているのは、大町市としてせっかくこれだけ魅力のあるものがあって、周りの方たちが意外と知らない。これを大町市として外にこんなによいものがあるということをアピールしていくということも目的に入れられたらと思っている。

○亀山会長

発信するときのキャッチフレーズみたいなものも、全体の計画のあたまに書かれているとよいのではないか。今すぐでなくてもよい。やはり発信することが大事なので、こんなまちという大町の上につく、キャッチフレーズみたいなものがあったらよいは思う。そのうち皆さんのがからよい呼び名が出てくるとよいと思う。

目的については、順番を逆にしたほうがよいところもある。発信ということにもう少し力点を置いた目的にしてほしいという意見と理解させていただく。

関連して皆さんのご了解をいただきたいのは、3ページの地図の地域区分である。このように4つの地域区分というはどうだろうか。これまではこのように意識されていなかったと思うので、やや唐突な感じがするかどうかも含めてご意見をいただきたい。とくに後から加わっていただいている八坂と美麻の方々には、何か一緒にされていいるような感じがなくもなくて、それがどうなのか。例えば、美麻は小さな盆地みたいなのがあって、それがわりと魅力的なところあるが、これで見ると、旧大町のほうが盆地のように地図上で表現されている。美麻の辺りというのは、あまりにも平坦部が小さいため、盆地が所々にあるような感じに表現できないので、わりと一緒にになっている感じがするがどうなのか。皆さんの感覚でお感じになっていることをお伺いしておきたい。

○中山委員

計画全体をあまり複雑にしないという面からすると、この分け方は非常によいと思っている。会長が言われたように、細かく見るとアンケートにも出ているように、八坂の金熊川や美ヶ原が見える風景とかと、個々にみれば確かにそういう魅力もあるが、地域をエリアとして分けて、色々な規制をつくるという面では、こういう大きな分け方というのは非常によいと思っている。

意外と難しいと思っているのは、文化的というところだと思う。自然景観では非常に具体的なものも色々あるが、まちなかの景観というと、住んでいる人たちが景観として捉えているかどうかは、また別問題だと思う。仁科神明宮、若一王子神社があるが、景観と考えたときは門前町とか寺内町というような、お寺と地域に暮らす人々というような関係のなかで景観を捉えることが多いと思う。それが苦しいから、神社と周りの森林を保全することに置いているけれど、景観からすると大町市としては難しい分野だと私は感じている。確かに重要なものはあるが、景観条例のなかに位置づけるとなると非常に難しいと思っていて、おそらく計画のなかでも少し曖昧にしてあるのかと思って読ませてもらった。今後検討していくのはその辺りだろう。ただ、エリアとして分けるのは、これはベターだと思う。

○亀山会長

確かに仁科神明宮のところは、神社の境内が広く建物が色々あるというわけでもなく、山の中には

つんとある感じである。国宝のものがあるのに、にじみ出た感じがあまりなくて、ぼつんとある。そのようなあり方がまた魅力でもあるのだろう。それをエリアとして捉えるのは難しいということを、頭に入れておいたほうがよい。

○一條委員

私もこのエリアに分けるという考え方は賛成である。ただ、大町市には色々と関わらせていただいたが詳しくはないので、このエリア分けがよいのか、住民が納得できる分け方なのか。美麻と八坂が一緒でよいのかわからないが、こういう分け方はメリハリがついてよいと思っている。

もう少しはつきりと意識したほうがよいと思っているのは、エリアごとにこういうふうにまとめていきましょうとしているが、そのなかで、点と線と面、これはたぶん視点場側の話であろう。視点場側が中心になるのは、やはり山並みとか自然の風景を見る場所が保護する対象として多いということになるため、この場所の分け方は視点場側からの分け方に近いと思っていて、ただ、このエリアの中に視対象も入る。例えば、田園・里山エリアの田園の部分が視対象なのか。そうすると田園を維持していくというのは、視対象をどう維持していくのかというふうに課題を出していかないといけないことと、田園風景を見る視点場を、その風景の維持とか、もっと風景をよくしていくという両方があると思う。そこが若干、混ざっているように感じたので、もう少し意識をして分けたほうがよいと思った。エリアの分け方ではなくて、エリアの中に入ると主に視点場が中心で、視対象も入っているので、視対象についてはどういうふうに保護し、視点場としてはどうしていくのか話をていきましょうというように、視対象なのか、視点場なのか分けてみると、もう少しまとまりやすい。

たぶん並列的に、エリアの分けと、山の景観、田園・集落の景観などの5つの分けがちょうど同じ枠の中に入っているので、ボリュームはみんな一緒のようみえるが、おそらく山の景観はボリュームとしてはかなり多い。視点場としても、視対象になる場所がかなり多く、文化的・歴史的景観や、下のほうはどちらかというとボリュームは小さくなると思うので、そのボリュームをちゃんと意識して、重要なものと下のほうにくるものを意識した分け方をしていけば、そんなに違和感なくまとまるだろう。場合によっては、あまり細かいものは自主的に住民の方たちが管理してください、ここで決めることから外しましょうというものも出てきてもよいだろう。何もかも入れると本当にまとまりがなくなると思う。

○亀山会長

視点場と視対象の関係がまさに風景なのだろうが、道路から見たり、鉄道から見たりする沿線の風景もわりと大事。今でいえば、田植えの終わった後の水田の風景だとかというのが大事で、そういう意識でみておく必要があると思うので、いまご指摘いただいたところは難しいが、考えいただけるとよいと思う。

○荒井委員

私が持っているのは昭和2年につくった大町市の紹介をした本で、大町のよさと歴史を書いたもので、大町に来る人たちが理解できるように、わかるようにということでつくったのだろう。景観のこともたくさん出てくる。大町市から見える大事な景観のところはいくつもあるが、10か所に絞って書いてある。昭和2年頃の大町の人たちは、こういうところがよいと感じていたように、例えば西の山がきれいだというふうにはなっていない。西の山のこの場所、大町市からは見えないが、松川村や

池田町のほうへ行くと、蓮華岳の後ろにある尖がった針ノ木岳がしっかりと見える。そういうところが、非常に主体的に捉えて書いてあることに感心した。各場所でも、例えば靈松寺というのも1つの景観として、お寺自体が景観として非常によい。お寺をさらに磨きをかけるために、靈松寺の見るところ10か所を挙げてある。いま私たちが色々客観的に見ているのとは少し違う目で、非常に鋭く、あそこにある水場の風景、そのようなところが1つずつ挙がっている。靈松寺の下のところに座禅岩があり、そこで靈松寺を始めた人が座禅をし、横にある滝で修行をしながらお寺を開いたということも書いてある。

私もそうだが、いまあるものをただ客観的に見て、きれいだ、きれいだと。大町に来る人たちのお話を聞くと、アルプスがきれいですね、こういうところが魅力的ですね、こんな素晴らしいところで住めることは大変幸せですねと言ってくれる。それはそれで大変うれしい言葉だが、そのきれいさというものが、主体的に一体どう捉えてその人が言っているのかという観点が、話のなかでは聞こえてこない。聞こうとしても、たぶんその人には絶対わからないだろうと思うので。ただきれい、きれいという景観ではなく、やはり景観というのは主体的に自分たちがつくっていく、大町市民がつくっていくという意識になるような景観づくりや見方をして、自分たちが生活のなかで努力をしていく。皆さんご存知だと思うが、農具川沿いにシバザクラが植えられていて、時期になるととてもきれいである。季節になると皆さんご覧になって、いまは花が終わってしまったが、来年に向けて今からシバザクラをきれいにして、来年の花の時期になったら皆さんに喜んでもらえるように今から整備をしておきましょうという呼びかけでできた。

私がうれしいのは、西小のサクラが挙げられたこと。私は西小の校長をやったことがあるので、これが認められてよかったです。サクラの下を子どもたちが登下校のときに歩くが、サクラの木が腐ると、枝が折れて自然に落ちてくる。そんなことがもしかしたら、これは西小に勤めている教員としては大変申し訳ないことなので、みんなでサクラの整備をしましょうということで、PTAの皆さんと一緒に消毒をしたり、欠けそうな枝を切ったりすることを毎年やっている。音頭を取るのは西小のPTAの人たちの有志、それから学校の先生たち。そんなことがあって、西小のサクラが挙げられている。よかったです。そういうこと考えると、皆さん非常に努力をしている。

例えば八坂の大滝は見晴らしがよい。裏から滝を見る裏見の滝なので、きちんと棚をつくって、滝の落ちる後ろのほうから見ている。

努力をする、そういう意識をつくるための計画を立てていく。ただつくるだけでなく、いい場所、景観をつくるようにやっているという意識で、自分たちも頑張ろうという思いをもってもらいたい。最近心配しているのは、耕作されず放っておられる農地が出てくることである。ここにも太陽光パネルのことが出ていた。そういうところをどうするかというのは大問題である。そういうことを真剣に考えていくような市民でありたい。そのために条例をつくっていくということで考えていきたい。

○亀山会長

おそらく一言で言うと、これは規制をするというような仕組みだけを考えるのではなく、やはり景観づくりは運動である。市民の皆さんがこういうことを大事だと思っているようなことをする運動だと考えることが大事だと。規制することが大事ではなく、どう考えて、どのように行動していくかというような、大町市民の景観、風景をよくしていく運動をどう進めるかというようなことだと思う。そんな考え方ではないか。昭和2年というと、まだ大町市が町だった頃で、そういうこときちんと語り継いでいくことがすごく大事だと思う。読本をつくることも考えていくことが大事だと思われる。

○竹内委員

3ページでお尋ねしたいのは、まちなかエリアはおそらく都市計画の用途地域の範囲を設定していると思われるが、関連して2ページに空き家や廃屋が問題点として挙がっていて、それが景観の課題としてピックアップされている。いわゆる日常の住宅地に関しては、単純にその用途地域で設定されているまちなかエリアというだけではなくて、例えば常盤地域だと、国道の沿道に郊外店があったり、あるいは新興住宅地が周辺に広がったりするということもある。新興住宅地というと現役世代のための住宅地になることが多く、いま空き家の問題になっている住宅地、他の新しい住宅地は、また一世代後には同じような問題を抱えるため、その辺りに懸念があると思うので、そこまで考えると、まちなかエリアの設定のところは、多少検討の余地があると感じている。

最後の6ページ、これは個人的に気になるところで、左側の景観重要建造物について、塩の道ちょうどじやは国の登録有形文化財だと思う。ついでに付け加えると、靈松寺山門は長野県指定有形文化財なので、必要ならば加筆いただいてもよいと思う。

○亀山会長

前半でご指摘いただいたことについては少し課題として、大きな括りとしてはまちなかだが、色々な課題があるということを認識しておく必要があるということで、よろしくお願ひしたい。

その他、ご説明いただいたところでは、この5ページの第3章については、この後、このツールの点と線と面という3つに分けているが、どういうことがこれから必要になってくるかというような課題や手法については、次回またご覧いただき、ご意見いただくようになると思うので、全体の方向としてはだいたいこのような感じということで、まず本日はご理解いただき、次回以降につなげていきたいと思っている。

山崎委員は県から来ていただいているが、県の景観行政との関係など何かあればお願ひしたい。

○山崎委員

単純に質問である。1ページのなかに、「景観づくり」という言葉と、「景観形成」という言葉が出てくるが、基本的に守るべきもの、守るべき景観を利用して眺望点を増やしたりしていくというのはわかるが、何か新たに景観をつくり出すということを考えているわけではないということでおいか。そのなかで、景観づくりと景観形成という言葉が、かなり色々なところでちりばめられているが、そのあたりの使い分けが何かあれば教えていただきたい。

○亀山会長

おそらくまだ、あまりきちんとされていないという感じはしている。

○事務局：吉川主任

ご指摘いただいたとおり、亀山先生がおっしゃっていただいたように、明確なものはない。ただ、住民の方々の色々な活動のなかで、例えばそのような運動を盛り上げていくことで新たな活動が生まれてきて、それによって新しい景観、例えば並木がまた増えてきたとか、そうしたものというのは新たな景観形成、新しくつくり出されてくるようなものもあると個人的には考えている。言葉の精査については、今後検討していきたいと考えている。

○事務局：KRC 小林

補足をさせていただくと、景観形成という言葉はこれから整理が必要になってくると思うが、国の景観法のなかで景観形成という言葉を使っていて、県では景観育成という言葉が使われているが、景観づくりとあえて使っているのは、景観づくりのほうが包括的で少し柔らかい表現というところで、守ること、育てること、つくること、全部含めて「景観づくり」という言葉に集約できればよいと考えている。章のタイトルを景観づくりの目標と方針みたいなかたちで統一できればと考えているが、そのなかにはつくることを守ることも全部含まれた言葉として使っていけるとよい。

○亀山会長

どこかに言葉の使い方を整理して、初めのほうにでも載せておいていただけるとよいと思う。

そろそろ時間だが、他に何か質問等はないか。なければ、本日はまだ入口なので、これを元に素案をつくって、次回委員会を行いたいと思う。

3. その他

資料1で今後のスケジュールについて事務局から説明。次回の第4回検討委員会は7月下旬から8月に開催予定とすることを確認。

以上